

## 日本剣道形(参考)

### 1. 日本剣道形制定の経緯

日本剣道形は、明治44年7月中学校令施行規則が一部改正され剣道が柔道と共に中等学校の正科として採用されることになった。大日本武徳会、文部省、東京高等師範学校の三者が協議し、明治44年12月剣道形制定の調査委員会を設立した。

主査として根岸信五郎、門奈 正、辻 真平、内藤高治、高野佐三郎、5氏に委任し草案を作成。更に全国を11区分し20名の調査委員を招聘し、鋭意調査研究の結果、大正元年10月16日大日本帝国剣道形が制定された。指導上の統一を図ることを目的に、いずれの流派にも属さない各流派統合の象徴として制定したものである。

大正6年9月、所作に関する細部の解釈の違いから不統一が顕著となったため、「加註」が施された。

昭和8年5月、剣道形の更なる普及発展と細部の所作に対する詳解の必要性から「増補加註」及び写真説明「高野佐三郎(打太刀)小川金之助(仕太刀)」がなされ、統一の徹底が図られた。

昭和56年12月7日 「日本剣道形解説書」制定。

平成24年4月1日 『剣道講習会資料』第6版 発行。

### 2. 意義

日本剣道形は、長い歴史を持ち、理合い・精神面に深い内容を持つまでに発達した伝統文化である。この伝統文化である、剣道形を正しく継承し、次代に伝えることは大きな意義がある。

### 3. 剣道形修練の目的

日本剣道形の修練を通じて、剣道の原点である「剣の理法」を学び、剣道の正しい普及発展に役立てることが目的である。高野佐三郎先生著「剣道」の中では次のように教えている。「斯道の練習法に三様あり、第一・形の練習、第二・仕合、第三・撃ち込み稽古、是れなり」剣道形修練の重要性を説いている。

### 4. 重点事項(剣道講習会資料)

- (1) 立会前後の作法、立会の所作、刀の取り扱い。
- (2) 正しい刀(木刀)の操作(刃筋、手の内、鎧の使い方、一拍子の打突など)や体さばき。
- (3) 打太刀、仕太刀の関係を理解し、呼吸を合わせ、原則として仕太刀が打太刀より先に動作を起こさないこと。
- (4) 打太刀は間合に接したとき、機を捉えて打突部位を正しく打突し、仕太刀は勝機を逃すことなく打突部で打突部位を正確に打突すること。
- (5) 形の実施中は、目付け、呼吸法、残心などを心得て、気分を緩めることなく終始充実した気迫で行うこと。

### 5. 「日本剣道形」修練における基本的な留意点

- (1) 日本剣道形解説書、講習会資料「日本剣道形」を熟読、精通して剣の理法に基づく剣道形を体得する。
- (2) 立会の所作および刀の取り扱いを適切に行い、正しい刀(木刀)の操作(刃筋・鎧の使い方・手の内)一拍子の打突や体捌きを正しく行う。特に小太刀の置き方に留意すること。
- (3) 五つの構え、および小太刀の形においては、半身の構え、入り身の所作を自得すること。
- (4) 打太刀(師の位)、仕太刀(弟子の位)の関係を理解して呼吸を合わせ、合気となり、終始充実した氣勢、気迫で行う。原則として仕太刀が打太刀より先に動き始めないようにする。

(5) 太刀の形は『「機を見て」機とは(心と体と術の変わり際に起こるときの兆しのこと)』を打つのである。この場合、打太刀が仕太刀に勝つ所を教えているもので、打太刀は、仕太刀が十分になったところを見て打つ。打つということは切るという意味である。

小太刀の形は、「入り身になろうとする」を打ち、入り身とは(氣勢を充実して相手の手元に飛び込んでいく状態をいう)「なろうとする」ことから形に表さない。打突の機会を適切に行う。

(6) 目付は原則として、相手の目を見るが「遠山の目付」で行う。

(7) 足さばきは「すり足」で行い音を立てず、一方の足を移動させたときは原則として他方の足を伴って移動させる。

(8) 仕太刀の打突後の残心は、形の示されている、いないにかかわらず、十分な気位で残心を示し、打太刀は仕太刀の十分な残心を心得てから始動すること。

(9) 打太刀は、間合に接したとき、機を見て打突部位を正しく打突し、仕太刀は打突部で打突部位を刃筋正しく打突する。又、振りかぶった剣先が両拳より下がること。

(10) 技に応じて、緩急強弱を心得て一拍子で行うこと。

(11) 呼吸は構えるときに吸気し、前進するときは、丹田に気迫を込め、呼気の氣勢で打突(発声)すること。

(12) 形の実施中は、初めの座礼から終わりの座礼まで、特に構えを解いて後退するときも、気分を緩めず、終始充実した氣勢で行う。

## 6. 共通理解

(1) 中段の構えの延長とは、棟の鰐元と切っ先を直線で結んだ延長をいう。

(2) 太刀一本目、打太刀正面打ちを抜かれた剣先の高さは下段程度。

(3) 太刀四本目、双方切り結ぶ位置は、およそ刀の中央部、剣先は、正面の高さ。

(4) 太刀五本目、仕太刀の中段の構えは、一挙前に出し刃先は、やや斜め下。

(5) 太刀六本目、仕太刀がすり上げ小手を打ったとき、右足を踏み出し左足を引き付けるを原則とするが、間合いによって引き付けなくても、踏み出したと解釈する。

(6) 太刀七本目、仕太刀がすれ違いながら胴を打つときの方法。

①右足を右前にひらいたとき、刀を左肩上に振り上げ左足を踏み出すと同時に胴を打つ。

②右足を開いても(体は移動させない)刀を振り上げず、左足を踏み出すと同時に振り上げ振り下ろす一拍子で打つ方法。(修練者の錬度に応じて指導する)

(7) 小太刀半身の構えの刃先の方向

①中段半身の構えは、刃先をやや斜め下に向ける。

②下段半身の構えの刃先は、真下とする。

## 7. まとめ

1) 日本剣道形解説書・講習会資料(日本剣道形)を熟読・精通する。

2) 日本剣道形の修練を通じて、剣道の原点である剣の理法を学び、剣道の正しい普及発展に役立てることが目的である。

3) 我が国の伝統文化として次代に正しく継承しなければならない、その為に、平素から日本剣道形の修練に努める必要がある。